

1 現状・課題

学 力	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の重点指導事項として、「国語科学習をとおして、表現力を高め、活用できる児童を育てる」ことを取り上げてきた。全学年が国語科の学習改善に取り組むことでは、特に「話す」「書く」の項目について表現力系統表と表現力チェック表を作成することにより、めざすべき目標を持つことができ、評価と指導に活かすことができた。「書く力」「話す力」とともにほとんどの児童がポイントを上げることができたが、個人差は大きい。 ・国語の時間に身に付けた力を他教科等の学習や集会活動に活かせるような場の設定を行うことについては、表現力向上に結びつく学習活動について検討し、計画的に学習を展開するようになってきたので、話したり書いたりする活動で表現を工夫しようとする意識と態度が見られるようになってきた。 ・「全国学力・学習状況調査」や「徳島県学力調査」の本校の結果から「知識」に比べて「活用」に関する問題の正答率が低く、文章を読み取り、それを要約したり自分の考えにまとめたりする表現力に課題がある。 ・算数科においては、基礎的基本的内容についての理解や計算はほとんどの児童はできているが、応用題や文章題においては個人差が大きい。 ・本校の平均読書冊数は一昨年度は131冊、昨年度は160冊と毎年伸びているが、個人差は大きい。
学 習 状 況	<ul style="list-style-type: none"> ・学習中は意欲的に取り組み、積極的に発言しようとする児童が多く、主体的に学習に参加しようとする姿勢が見られる。しかし、論点の構成が不十分で主観的な発言が目につく児童もいる。また、一部の児童ではあるが、苦手意識を持つ教科がある児童もおり、個に応じた指導が必要である。

2 目標等

(1) 学力について

重点目標：学習のめあてを明確にし、自分の考えを表現する力を身に付けさせる。				
具体的目標	数値目標	具体的方策	評価	改善点
各教科において、課題や目的に応じて自分の考えや生活経験とを結びつけてまとめ、表現する場を設ける。	表現力チェック表の「書く力」の評価を年度当初より3ポイント以上上げる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいを明確にし、教材教具の工夫をするなど授業の中に効果的に取り入れる。 ・感想や評価のための言葉を使えるようにチェックカードを用いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報に基づいて書く力が身に付いてきた。個人差が大きいので個別指導を中心に行ってきた。 ・情報があれば書くことができるが、自分の考えをまとめることは難しい。 ・めあてに従って学習しようとする姿勢が身に付き、苦手意識をもっていた児童も根気強く取り組めるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場の設定はできたが、表現力を上げる手だてが十分でなかったため、手だての工夫が必要である。 ・国語科学習はもちろん、日々の日記指導も充実させる。 ・体験活動をした後はお礼の手紙や感想を書くことをとおして自分自身への気づきや学習の意義を深められるような表現を引き出すことができる指導をする。 ・チェック表の見直しをする。
			4・③・2・1	
学習や生活の場面で相手や目的に応じた適切な言葉遣いができるようにする。	表現力チェック表の「話す力」の評価を年度当初より3ポイント以上上げる。	<ul style="list-style-type: none"> ・担任は、朝夕の会などでスピーチの場を設けたり、集会活動などにおいて発表の場を設けたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧な言葉で話すことはできるが、相手に分かりやすい言葉で話すことはまだ十分でない。 ・相手の話を聞いた上で自分の意見を述べること 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝夕の1分間スピーチなどの充実を図る。 ・筋道を立てて発表できるように、目的意識をもたせるとともに短文で表現できるように指導する。 ・国語科学習の話す活

			<p>ができるが、自分のもっとも主張したい部分の表現が苦手な児童もいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話すことを得意とする児童が多いが、筋道に一貫性をもたせる指導が必要である。 	<p>動の時間を充実させ、学習内容を掲示するなどして様々な場面で応用できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機会を促して全体指導や個別指導を行いフィードバックし、表現力の向上を図る。
			4・③・2・1	

<p>各教科において、目的に応じた読書活動を展開できるようにする。</p>	<p>毎月2～3冊以上の読書ができるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読書賞を設け、30冊ごとに表彰をし読書へ意欲をもたせる。 ・読書集会でクラス発表をする場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・低・中学年においては全員目標が達成できた。 ・読書はよくするが、読書傾向に偏りがある。 ・高学年においても全般に読書はよくするが、読書賞を獲得した児童はまだ少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせや本を紹介する時間を取り、様々な本に目を向けさせる。 ・読んだ本のおすすめや紹介のコーナーを設け、友達の読んでいる本にも目を向けさせ、様々な本を読もうとする意欲をもたせる。 ・調べ学習や単元に関連する図書の充実を図る。
			4・③・2・1	

(2) 学習状況について

重点目標：学年や個に応じた指導方法の充実を図り、主体的に取り組む学習方法を身に付けさせる。				
具体的目標	数値目標	具体的方策	評価	改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・学年や個に応じて主体的に学習に取り組むことができる。 ・相手の意見や考えをしっかりと聞き、いろいろな考えや意見を尊重することができる人間関係をつくる。 	<p>授業や単元の終わりに評価を行い、3ポイントをめざす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業を行い、複式学級における学年に応じた指導方法や学習方法を研究する。 ・特別支援教育についての研修を行い、個々のもつ特性と効果的な支援方法について共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複式学級になり、人数が増えたため、話し合い活動が活発にできるようになった。 ・発表は積極的であるが、自分の意見をうまくまとめるのが苦手な児童がいる。 ・主体的に取り組めてきた児童もいる。具体物の支援より教師との1対1の支援が効果的である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動において、自分と似ている意見や違う意見に気づいて話し合ったり一つの意見にまとめたりする力をつけていく。 ・複式学級で上の学年・下の学年と一緒に学習ができるという利点を生かし、お互いに刺激し合い、よさを学び合える活動や指導を続けていく。 ・研究授業において個に応じた効果的な指導方法を探り、個別の指導計画を立てていく。
			4・③・2・1	

※評価欄の上段には、各具体的目標における数値目標の達成状況について記入しています。

下段には、達成状況を「4 十分できた 3 概ねできた 2 あまりできなかった 1 できなかった」で判断し、該当番号に○を付けています。